

## 教養は学歴の邪魔か？

しかし天津神国津神、神々にまつわる神話、あるいはおばあさん直々のアニミズムみたいなものは、少なくともぼくの芯をなしている。宗教としては次元の低いことだとしても、一種のそういった敬虔な気持ちは、実は生活上の知恵だったかもしれないけど、身につけているし、これはけっこう外国人とのつき合いのうえでも通用する。今の日本人には、脅えとか恐れ、あるいは敬虔な気持ちは必要なんだと思うんです。本来、そういう気持ちを抱くのが人間としては当然なんですけどね。そしてこれが国際化だと思う。…… 社会の雰囲気ですね、書物を大事にするという。これが幼心にも感じとられて。だからといって、今の時代に本なら神性を感じるということは無理ですけどね。ただ、そういうことをしっかり教えておけば、行儀がよくなるとか、相手に脅えを感じて話すようになるとか、あるいは、自分を律することにもなる。もしも日本に文化というものがあるとするならば、そういうものを日本文化と呼びたい。(野坂昭如 2000、『かくて日本人は餓死する』)

教養とは思いやりであると、筆者は理解している。思いやりがもてるのは周りに配慮できるからで、豊かな経験と知識がなければ温かい思いやりには至らないと思う。

昨今では、自転車にいつ轢き殺されるかわからないというほどの恐怖心を抱いている。実際に自転車にぶつけられて亡くなった方もいる。歩道をびくびくして歩いていると、自転車が後ろからも、前からもたいそうなスピードですり抜けていく。バス停にバスが来て乗車しようとする、自転車が人とバスの間に突進して割り込む。幼稚園児と母親が門を入ろうとすると、自転車は彼らを押しつける。自転車も自動車に準じて、左側通行であるが、道路の右側を逆走する。バスの運転手は極度に緊張することになる。夜は灯火もつけていない自転車が少なからずあるので、歩行者にも自動車にもよく見えない。したがって、朝には道角にシルバー人材センターのシニアが、夜は交番の巡査が注意のために交差点に立つ。筆者は被害者なのに、「ごめんなさい、勤務先の学生がご迷惑をかけて、すみません」と市民の被害者に謝らざるをえない。授業に遅刻しそうな学生たちが幼児やシニアを恐怖に陥れているのだ。講義棟の前には自転車が雑然と置かれる。これを丁寧に整理するのは、やはりシニアである。腕力がある学生の跡始末を、老齢の方々が大変な思いで整理しているのである。江戸しぐさという教養はここにはない。とても恥ずかしいことである。このように、思いやり、教養は大学歴の邪魔なのである。教養は高学歴になっても身につくものではない。

それでも、年長女性は比較的丁寧な方が多いので、すれ違う時に道を譲ると、会釈する。年長男性は横柄にチンと鳴らすので、この音はドキッとして神経に触る。犬でも嫌な音なのに、人様を動かすのに、チンはないだろう。自分の声で、お願いするのが筋ではないの

か。ちなみに、著者が自転車で人様とすれ違う時にはスピードを落として、あるいは歩いて、「ごめんなさい、右を通ります」などと声掛けをする。チンは絶対にしたことがない。

若い歩行者も思いやりがない。狭い道でも力まかせに直進して、決して進路を譲り合おうとしない。これでは衝突するしかない。道路交通法では右側通行のはずだ。左側を歩けば、後方からくる自動車が見えない。右側を歩いている著者は自動車が来るのが見えるので、左側を歩く違反者のために、自らが自動車と接触する危険を冒して、さらに左によけるしかない。電車のホームで、人を押しつけての電車への飛び乗り、多くに人を危険にさらす。ドアに挟まれて、電車が発車できず、さらに学校や会社への遅刻者が増える。ホームでの冤罪でとても嫌な思いをしたことがある。誰かに突き飛ばされた幼児が筆者の足元にぶつかってきた。まるで筆者が突き飛ばしたかのように誤解した若い母親から、人でないのように言われた。弁明もできずに、とても惨めな思いをした。

大学キャンパスにおけるごみ捨て問題にも、不法投棄さえ学生自治会が求めており、本当に情けない思いをしている。話し合いで物事を決めるのが民主主義というものだ。大学生になると、小・中学生や高校生のように、お掃除当番はない。したがって、毎日、大学生が散らかしたごみは、現場の教職員が片付けている。自律的に自分のしでかしたことを処理できない、その無責任さは社会人見習い者として、これから、教養ある大人になれるのか、ほんとうに大丈夫かと疑う。

数少ない常緑樹の林には繰り返し、家電製品などが投棄される。教職員ばかりでなく、学生たちとも環境保全実習の一環でごみを片付けても、また片付けても、粗大ごみは捨てられ続けている。演劇部の舞台装置の廃棄物の下に、アブラゼミの幼虫がまさに羽化しようとしていたことがあった。その板を偶然の機会に、取り除かなかつたならば、地下生活6年の後に、羽化して空も飛べずに、死んだだろう。6年前に交わした常緑樹とセミへの「安全保障契約」は、学生が一方的に破棄したことになる。

つくづく思う、大学歴は教養ある若者を育てていないと。受験教育は過度の競争を強い、自分のことしか考えられない、思いやり、教養も想像力も衰微させた半人前の大人にしてしまっているのである。教養が邪魔をして何か粗暴なことができないのではなく、大学歴が邪魔して教養を身に着けさせず、思いやりのないことをさせているのであろう。もちろん例外はあり、教養ある学生や尊敬できる立派な大人がいないわけではない。

(2013. 1. 12)